

自然のなかで遊ぶ子、スポーツが好きな子は、友だちが多い！

中学生女子の2人に1人は、「最近腹が立ったことがある」

全国の小・中学生を対象に行ったB & G財団のアンケート調査から

自然体験やスポーツ活動が子どもたちの人間関係にどう影響するのか、B & G財団がアンケート調査を実施。自然体験やスポーツ活動の有無によって、「友だちの数」「年下の面倒をみる」「あいさつをする」などの項目で、明確な較差が表れました。

この調査は、B & G「体験クルーズ」に参加する全国の小・中学生（小学5年生～中学3年生の男女）を対象に、毎年行われているもので、今年も446名の子どもたちから貴重なデータを集めることができました。

結果、“自然の中で遊ぶ子ども”の割合は75.3%と、昨年（69.6%）よりも増加傾向にあることが判明。また、自然体験やスポーツ活動が生活習慣にどのように影響しているのかを探ってみると、自然体験やスポーツ体験をしている子どものほうが、「友だちの数が多い」「年下の面倒をよくみる」「きちんとあいさつをする」という結果が表れました。自然やスポーツで体を動かす子どものほうが、友だち関係の構築が上手で、いたわりや感謝の気持ちを持つ、健全な人間形成が図られていると、いえるのではないのでしょうか。

こうした設問の主な結果と解説を以下のとおりに、ご紹介いたします。なお、[アンケート調査の概要と、全設問の結果については別ページに用意したファイルをご覧ください。](#)

7割以上の子どもが自然の中で遊ぶ。

Q. あなたは海や山など自然の中で遊びますか。

（単位：％）

	全体		小学生		中学生	
	2003 年 n=479	2004 年 n=430	2003 年 n=244	2004 年 n=260	2003 年 n=235	2004 年 n=170
自然の中で遊ぶ	69.6	75.3	72.6	75.4	66.7	75.3
自然の中で遊ばない	27.2	24.7	23.4	24.6	31.0	24.7
無回答	3.2	—	4.0	—	2.4	—

“海や山など自然の中で遊ぶか”どうかを聞きました。

全体で7割以上の子どもたちが、「遊ぶ」と答えており、昨年の同じ調査に比べて増加傾向となりました（昨年は69.6%）。今の子どもは、昔に比べて自然体験や外で遊ぶことが少ないと言われていますが、この調査結果を見る限りでは、自然の中で遊ぶ子どもの方が多い結果となりました。

これは、調査対象が「体験クルーズ」の参加者であり、自然に関心を持っている子どもが多いという事情もあるとは思いますが、一方で、エコリズムや体験型の学習などが注目されるようになり、子どもたちや保護者の間で自然環境への関心が高まってきたということも考えられると思います。

また、“スポーツをしているか”を尋ねたところ、9割の子どもが「している」と答えました。“自然の中で遊ぶか”の設問同様、調査対象が「体験クルーズ」の参加者であり、普段、地域海洋センター・クラブ等で活動している子どもが多いことも結果に反映されていると思われます。男子では「野球」、「サッカー」の人气が高く、女子では「バレーボール」、「バスケットボール」を抑えて「水泳」が一番人気となりました。

友だちの人数に較差あり。友だちが多いのは、 “自然の中で遊ぶ子”、スポーツ “をしている子”。

Q. 普段一緒に遊んだり勉強したりする友達が何人いますか。

平均値

(単位：人)

	全体	小学生	中学生
全員	15.7 (n=430)	15.5 (n=260)	16.1 (n=170)
自然の中で遊ぶ子	17.7 (n=324)	17.5 (n=196)	17.9 (n=128)
自然の中で遊ばない子	9.9 (n=106)	9.3 (n=64)	10.9 (n=42)
スポーツをしている子	17.2 (n=369)	16.5 (n=226)	18.2 (n=143)
スポーツをしていない子	7.9 (n=55)	9.6 (n=30)	5.9 (n=25)

普段、一緒に遊んだり勉強したりする友だちの人数を、“自然の中で遊ぶ子” “スポーツをしている子” に分けて比較してみました。

“自然の中で遊ぶ子” “スポーツをしている子” は、そうでない子と比較し、小・中学生でそれぞれ約2倍の較差が出ました。なかでも、中学生では“スポーツをしている子”と、“していない子”で、3倍以上の較差が。自然の中で遊んだり、スポーツを楽しむことで、友だちにめぐり合う機会も多いということが推測されます。

“自然の中で遊ぶ子” “スポーツをしている子” は、年下の面倒を良くみる。

Q. 弟や妹など、年下の子の面倒を見ていると思いますか。

＜全員＞

（単位：％）

	全体 n=428	小学生 n=259	中学生 n=169
よくみる	40.4	37.5	45.0
たまにみる	42.8	46.3	37.3
あまりみない	7.2	8.1	6.0
まったくみない	3.3	3.1	3.6
まわりに年下の子がいない	5.6	4.2	7.7

＜自然の中で遊ぶ子・遊ばない子＞

（単位：％）

	全体		小学生		中学生	
	遊ぶ n=324	遊ばない n=106	遊ぶ n=196	遊ばない n=64	遊ぶ n=128	遊ばない n=42
よくみる	43.8	29.2	38.8	32.8	51.6	23.8
たまにみる	43.8	38.7	49.5	35.9	35.2	42.9
あまりみない	5.9	13.2	5.1	17.2	6.2	7.1
まったくみない	3.4	2.8	3.6	1.6	3.1	4.8
まわりに年下の子がいない	2.8	15.2	2.5	12.5	3.9	19.0
無回答	0.3	0.9	0.5	—	—	2.4

＜スポーツしている子・していない子＞

（単位：％）

	全体		小学生		中学生	
	する n=369	しない n=55	する n=226	しない n=30	する n=143	しない n=25
よくみる	41.5	36.4	37.6	40.0	47.6	35.6
たまにみる	45.5	27.2	49.1	30.0	38.4	24.0
あまりみない	5.0	17.8	7.1	16.7	4.2	16.0
まったくみない	3.4	0.4	2.7	3.3	4.2	—
まわりに年下の子がいない	4.1	17.8	3.1	10.0	4.9	24.0
無回答	0.5	0.4	0.4	—	0.7	—

年下の子の面倒をどの程度みるかについて、“自然の中で遊ぶ子”“スポーツをしている子”に分けて比較しました。

“自然の中で遊ぶ子”では、「よくみる」が全体で 43.8%、“自然の中で遊ばない子”が 29.2%と、“自然の中で遊ぶ子”の方が「年下の子の面倒をみる」という結果が出ました。

一方、“スポーツをしている子”では、「よく見る」が全体で 41.5%、“スポーツをしていない子”が 36.4%と、やはり“スポーツをしている子”の方が「年下の子の面倒をみる」という結果となりました。

また、“自然の中で遊ばない”“スポーツをしていない”子どもの場合、「まわりに年下の子がいない」との回答が多く、子どもたちの活動の範囲が狭いため、年下の子の面倒をみる機会や場面が少なくなっていることが推測されます。

**“自然の中で遊ぶ子”“スポーツをしている子”ほど、
「必ずあいさつする」割合が高い。**

Q. 家で「おはよう」「おやすみ」「ありがとう」などあいさつをしますか。

<全員>

(単位：%)

	全体 n=428	小学生 n=259	中学生 n=169
必ずする	55.6	56.9	53.6
ときどきする	35.3	36.9	32.7
ほとんどしない	5.8	3.5	9.5
まったくしない	3.3	2.7	4.2

<自然の中で遊ぶ子・遊ばない子>

(単位：%)

	全体		小学生		中学生	
	遊ぶ n=324	遊ばない n=106	遊ぶ n=196	遊ばない n=64	遊ぶ n=128	遊ばない n=42
必ずする	59.8	42.0	62.6	42.0	57.0	40.5
ときどきする	31.8	45.3	33.6	50.0	30.5	37.5
ほとんどしない	5.9	6.2	3.6	3.0	9.4	10.0
まったくしない	2.5	6.2	0.2	5.0	3.1	7.0
無回答	—	0.3	—	—	—	5.0

<スポーツしている子・していない子>

(単位：%)

	全体	小学生	中学生
--	----	-----	-----

	する n=369	しない n=55	する n=226	しない n=30	する n=143	しない n=25
必ずする	56.4	54.5	59.3	46.7	51.3	64.0
ときどきする	35.5	36.4	36.3	46.7	33.3	24.0
ほとんどしない	4.3	5.5	2.8	3.3	9.8	8.0
まったくしない	3.3	3.6	1.6	3.3	4.2	4.0
無回答	0.5	—	—	—	1.4	—

家であいさつするかについて、“自然の中で遊ぶ子”“スポーツをしている子”に分けて比較しました。

大きな差はないものの、全体的に“自然の中で遊ぶ子”“スポーツをしている子”のほうが、そうでない子に比べてあいさつをする割合が高いという結果になりました。「必ずする」「ときどきする」の割合は、約8割とかなり高い数値となっており、本調査では、あいさつをする習慣が子どもたちのあいだでは浸透しているようです。

また、「ほとんどしない」「まったくしない」割合が、小学生では約3%に対し、中学生は約7%とあり、中学生になるとあいさつしなくなる傾向が高くなるという結果も出ています。

中学生女子の2人に1人は、「最近腹が立ったことがある」。

Q. 最近腹が立ったことはありますか。

(単位：%)

	全体		小学生		中学生	
	男子 (n=225)	女子 (n=205)	男子 (n=140)	女子 (n=120)	男子 (n=85)	女子 (n=85)
腹が立ったことがある	35.1	46.3	35.0	44.2	35.3	49.4

最近腹が立ったことについて聞きました。

すべての分類において、男子よりも女子が10ポイント程度の割合で、「最近腹が立ったことがある」と答えたケースが多く、「親が勉強しろとうるさい」「担任の先生にいやみをいわれた」など、親や学校の先生に腹が立ったという内容が多い一方、「地球温暖化」「自然を壊す人間」など、社会問題に対する腹立たしさなども見られました。親や先生、学校の仲間などとの人間関係と併せ、子どもといえども自然や社会環境にも敏感になっている傾向が伺えます。

※アンケート調査の概要と、全設問の結果については別ページに用意したファイルをご覧ください。